

2014年2月5日

第一生命保険株式会社

第一生命保険株式会社 団体年金サービス部が 第2回『カエルの星』(内閣府男女共同参画局主催)に認定 ～当社としては、団体保障事業部に続き、2年連続の認定～

第一生命保険株式会社(社長:渡邊 光一郎)の**団体年金サービス部ドリーム年金室給付担当の取組みが、内閣府特命担当大臣より第2回『カエルの星』として認定**され、認定書と記念品(盾)を受領しました。

『カエルの星』は 2012 年に新設され、**企業や団体において、所属している組織(部・課・班・チームなど)単位で『働き方を変え成果をあげた取組み』を内閣府が選定・認定し、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業やその必要性を感じている企業に紹介することで、ワーク・ライフ・バランスの更なる推進に役立てるものです。**

当社では、2010 年度より企業価値を高めていく独自の経営の枠組みとして「DSR経営」(※)を展開しており、「業務改善による経営品質の向上」に向けて、ワークスタイルの変革、および働き方の変革に取り組んでいます。全社横断的な業務量削減および業務の標準化への取組み等を推進しながら、圧縮した業務時間を付加価値の高い業務に振り向けることにより、業務の品質および成果の維持・向上とワーク・ライフ・バランスの向上の両立を目指しています。

また、この取組みを進める上では、多様な個性を持つ人財が、ビジョンの実現に向けて力を合わせる「ダイバーシティ&インクルージョン」(D&I)の推進が必須であるとの考えのもと、当社ではD&Iの推進を経営戦略と位置づけ、取り組んでいます。

こうした取組みの成果が、今回の認定に結びついたものと考えています。

(※)Dai-ichi's Social Responsibility(第一生命グループの社会的責任):

当社の経営の枠組みは、一貫して経営理念・経営基本方針を実現するため、自らPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルを回しながら、一段高いレベルの経営品質を目指すことを基本としてきました。

当社の経営は、一般的な CSR という言葉の枠に収まらない当社独自の取組みとして、第一生命の「D」を頭文字に、「DSR=Daiichi's Social Responsibility(第一生命グループの社会的責任)」と表現して展開しています。これまで取り組んできたお客さま視点でのさまざまな対応や、職員の育成、当社業務のリスクの「見える化」(内部統制セルフ・アセスメント)、コンプライアンス推進や事務プロセス改善、お客さま満足度・従業員満足度向上に向けた取組み等、あらゆる活動においてPDCAサイクルを回して常に一段高いレベルを目指しています。



【認定のポイント】

- 一 組織統合等を背景に業務を徹底して洗い出し、2010 年から導入しているBPR [Business Process Re-engineering]活動(製造業アプローチ)による業務の見える化・標準化を、追究するとともに、PDCAサイクル回しながら、ひとりひとりに役割を持たせ、4 年間にわたり、改善活動を続けてきた。
- 一 これにより、増加する業務量に耐えうる体制を構築し、更に、効率化することで全体の労働時間を縮減するとともに、ミス削減し、顧客サービスの向上につなげている。
- 一 効率化と業務見える化の効果により、総労働時間短縮、有給休暇取得日数の増加やフレックスタイムの積極活用等の日々のメリハリのある働き方を実践し、ワーク・ライフ・バランスを実現している。

当社は今後も「お客さま第一主義 一生涯のパートナー」という変わらぬ経営理念のもと、「ダイバーシティ(多様性)」を更に進化させ、多様性を受け入れビジョンの実現に向けて力を合わせる「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」において最も進んだ会社となり、お客さま一人おひとりの安心で健康な人生をサポートしていくとともに、更なる飛躍への挑戦を続け、持続的な成長の実現を目指します。